

1. 研究課題名：統合評価モデルを用いた世界の温暖化対策を
考慮したわが国の温暖化政策の効果と影響

2. 研究代表者氏名及び所属：

増井 利彦（国立環境研究所 社会環境システム研究領域）



3. 研究実施期間：平成 23～25 年度

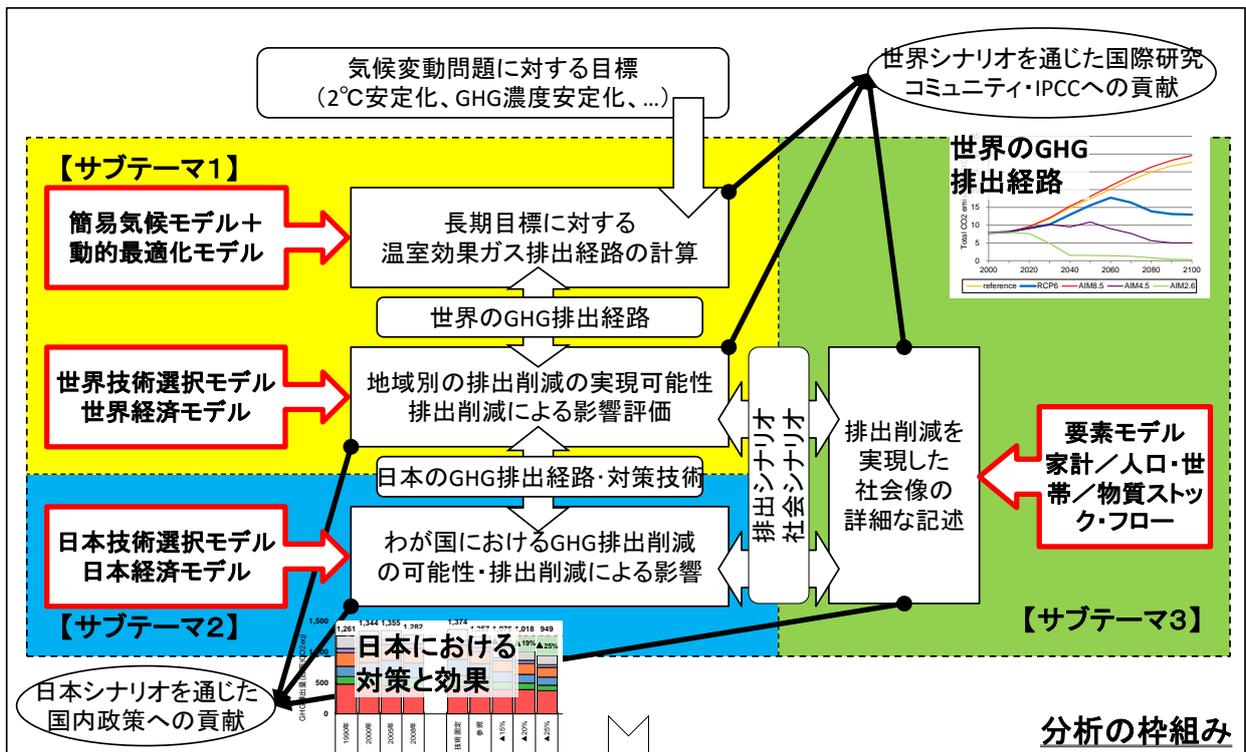
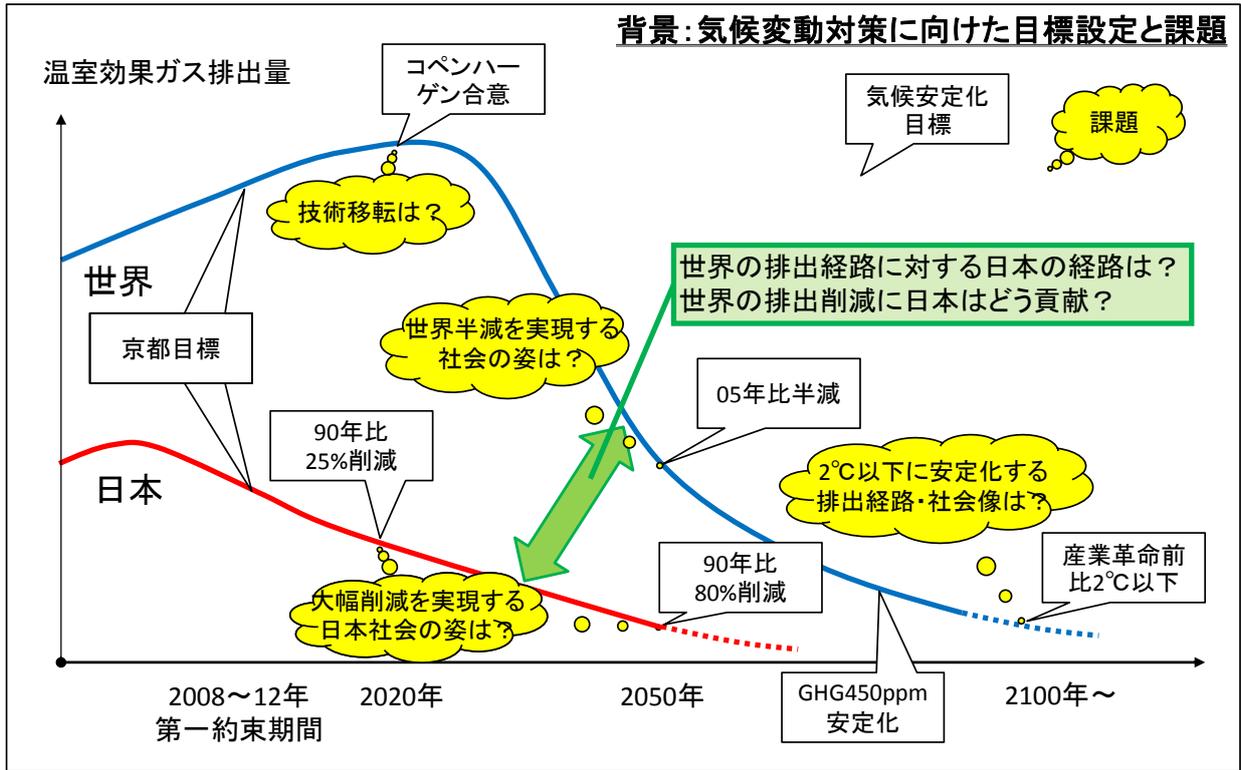
4. 研究の趣旨・概要

日本では 2020 年の温室効果ガス排出量を 1990 年比 25%、2050 年には同 80%削減する目標の達成に向けた議論が行われ、より現実的かつ詳細なモデルが求められている。一方、世界規模では、産業革命前からの気温上昇を 2℃以下に抑えるための排出シナリオの分析が、国際コミュニティを中心に行われている。こうした国際動向を踏まえつつ、国内の実現可能でかつ国際的にも有効な排出削減の姿を描くことが喫緊の課題である。本研究では、日本と世界を対象とした技術選択モデル、経済モデルを高度化し、低炭素社会に資する新しい技術の普及と効果を、より詳細に定量的に分析し、温室効果ガス排出削減の中長期目標を評価するとともに、目標を実現した社会像を描写する。

5. 研究項目及び実施体制

- ①世界モデルを用いた気候安定化目標の実現可能性とその評価（国立環境研究所）
- ②わが国における温室効果ガス排出削減策の効果とその影響（みずほ情報総研株式会社）
- ③社会の構成要素を記述するモデルの開発と将来シナリオへの適用（京都大学）

6. 研究のイメージ



期待される成果

- 世界シナリオの定量化を通じたEMF(エネルギーモデリングフォーラム)などの国際研究コミュニティへの情報提供とIPCCへの貢献
- 世界の動向を踏まえた日本の排出経路・対策の評価
- 日本における温暖化対策時の社会像・シナリオの詳細な記述